

小田原森里川海インキュベーション事業“寄気”^{よせぎ}

○はじめに・・・

環境省では「つなげよう、支えよう森里川海」プロジェクトにおいて、森里川海を豊かに保ち、その恵みを引き出すことを目的に「地域でまわる仕組みづくり」と「国全体で支える社会づくり」を展開しています。

平成28年度は「地域でまわる仕組みづくり」として、全国10地域を実証地域として選定し、地域の取組の支援と効果の測定・課題の抽出を行うモデル事業（地域循環共生圏構築検討業務）を実施しております。本市の事業は、このモデル事業の実証地域として採択を受け、実施するものです。

(1)対象事業

- ①多様な主体によるプラットフォームづくり
- ②自立のための経済的仕組みづくり
- ③人材育成

(2)支援内容

資金支援のほか、コンサル（受注者）支援、有識者による検討会・意見交換会の開催、効果評価手法の検討、シンポジウムの開催

○小田原市は・・・

市内の環境団体・個人の取組みをつなぎ、支え合うためのプラットフォームとして「おだわら環境志民ネットワーク」を設立。

本ネットワークに求められる機能を持続的かつ発展的に担うためには、将来的には行政と協働しつつも人的にも経済的にも独立した組織体制とすることが重要であることから、ネットワークの中核（事務局）として、各団体・個人が持続的かつ発展的に活動を行うための経済性を伴った仕組みを構築できる人材を育成する必要がある。

小田原市では、今回のモデル事業採択を受け、小田原市とおだわら環境志民ネットワーク、大学（ゼミ）等と連携し、その仕組みの構築について共同研究を実施するものです。

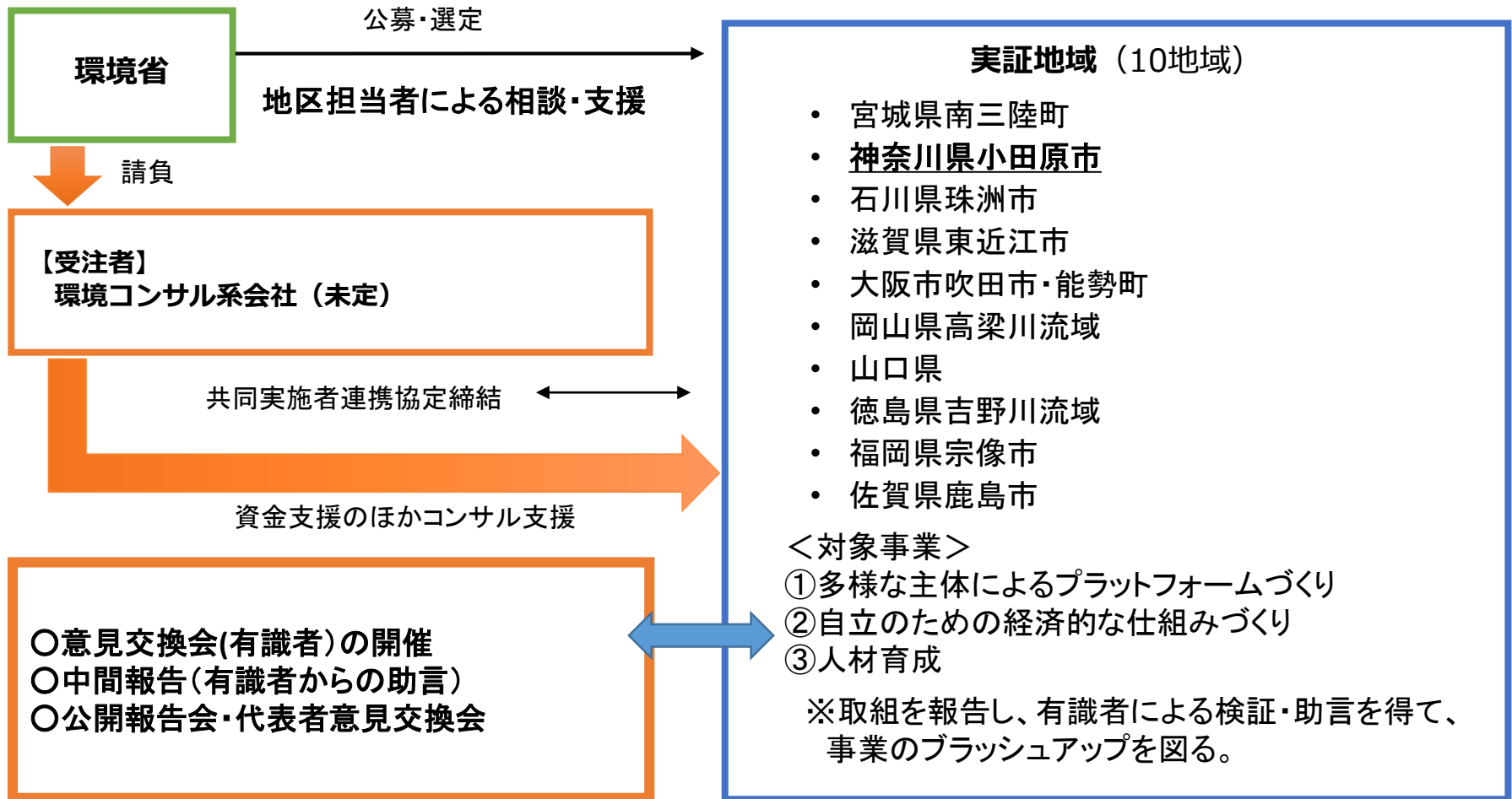
小田原市モデル事業について

小田原 森里川海インキュベーション事業^{よせぎ}“寄気”

環境省森里川海プロジェクトモデル事業

H29年度～の事業展開

- 森里川海の適正な管理と活用による「地域循環共生圏」の構築に向けて、実証地域において「多様な主体によるプラットフォームづくり」「自立のための経済的仕組みづくり」「人材育成」に取り組み、その効果を検証するとともに、地域の森里川海が生み出す恵みの経済的な評価を行う



小田原市の概要

位置：神奈川県西部（二宮町、南足柄市、箱根町等と隣接）

人口：193,515人（県内第10位） 世帯数：81,244世帯

面積：113.81km²（県内第5位）

気候：年平均で気温16度、温暖で暮らしやすい気候



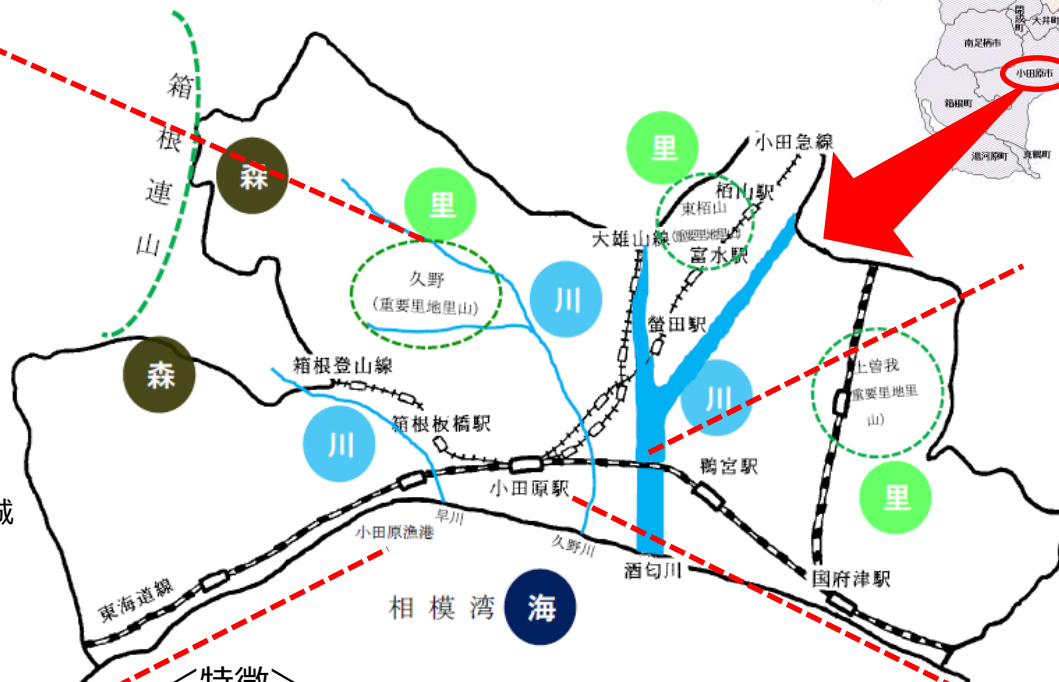
重要里地里山に選定された市西部の久野地域の里山



小田原のシンボル・小田原城



小田原漁港で水揚げされる魚



<特徴>

首都圏近郊に位置しながら森里川海オールインワン
寄木細工などの木工業や蒲鉾・干物などの水産加工業
戦国時代の城下町・江戸時代の宿場町
→自然・産業・歴史・文化が揃った都市



市内中央を南北に流れる酒匂川から見える富士山

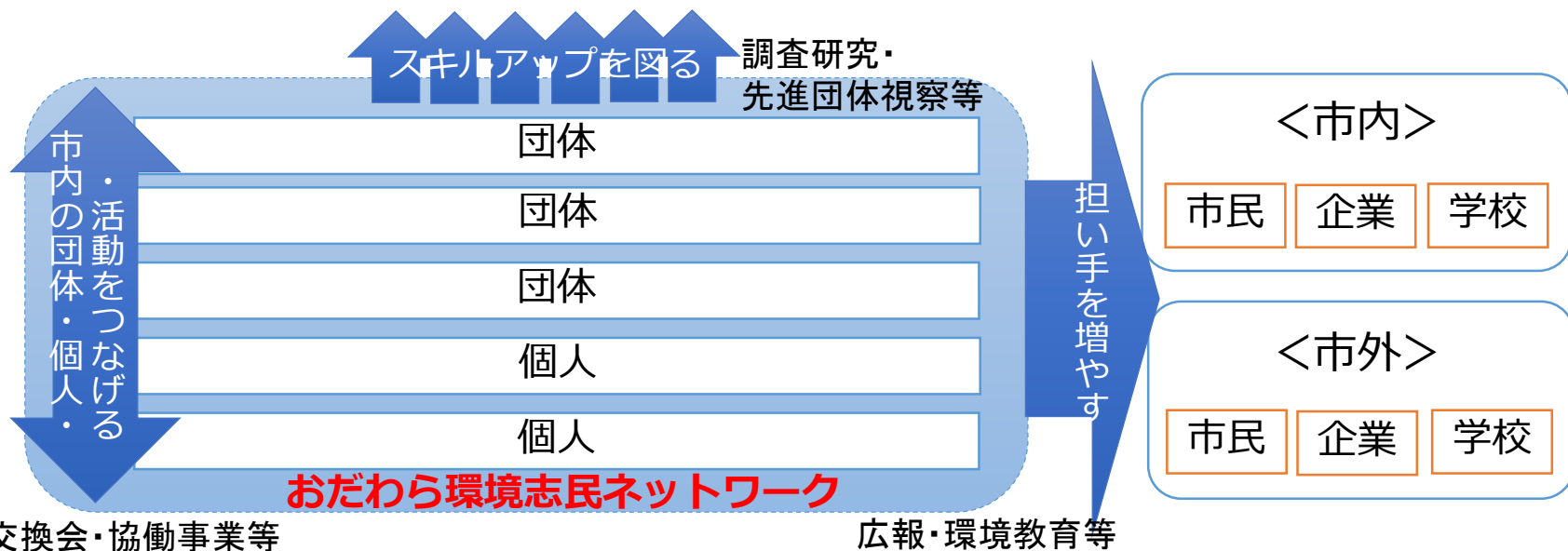


小田原の伝統工芸・寄木細工

おだわら環境志民ネットワークについて

活動の方向性

～「寄気」をキャッチフレーズに、人・取組・森里川海をつなげる～



会員一覧（平成29年2月現在）

【団 体（17）】

小田原市環境ボランティア協会、和留沢わくワーク村実行委員会、ブリの森づくりプロジェクト、NPO法人小田原山盛の会、小田原森のなかま、日本野鳥の会・サシバプロジェクトチーム、美しい久野里地里山協議会、金次郎のふる里を守る会、曾我山応援隊、めだかサポーターの会、あしがら冬みず田んぼの会、小田原箱根商工会議所

【企 業】

株式会社T-FORESTRY、有限会社小田原植木、FM小田原株式会社、株式会社オリエンタルコンサルタンツ神奈川事務所
合同会社小田原かなごてファーム

【個 人（14）】

鈴木博晶、志村成則、石戸谷博範、瀬戸正功、田先啓、播摩信之、宗像弓子、飯田富佐江、金子和子、滝田叔歳、富田茂雄
橋本正和、佐藤弘明、柏木知広

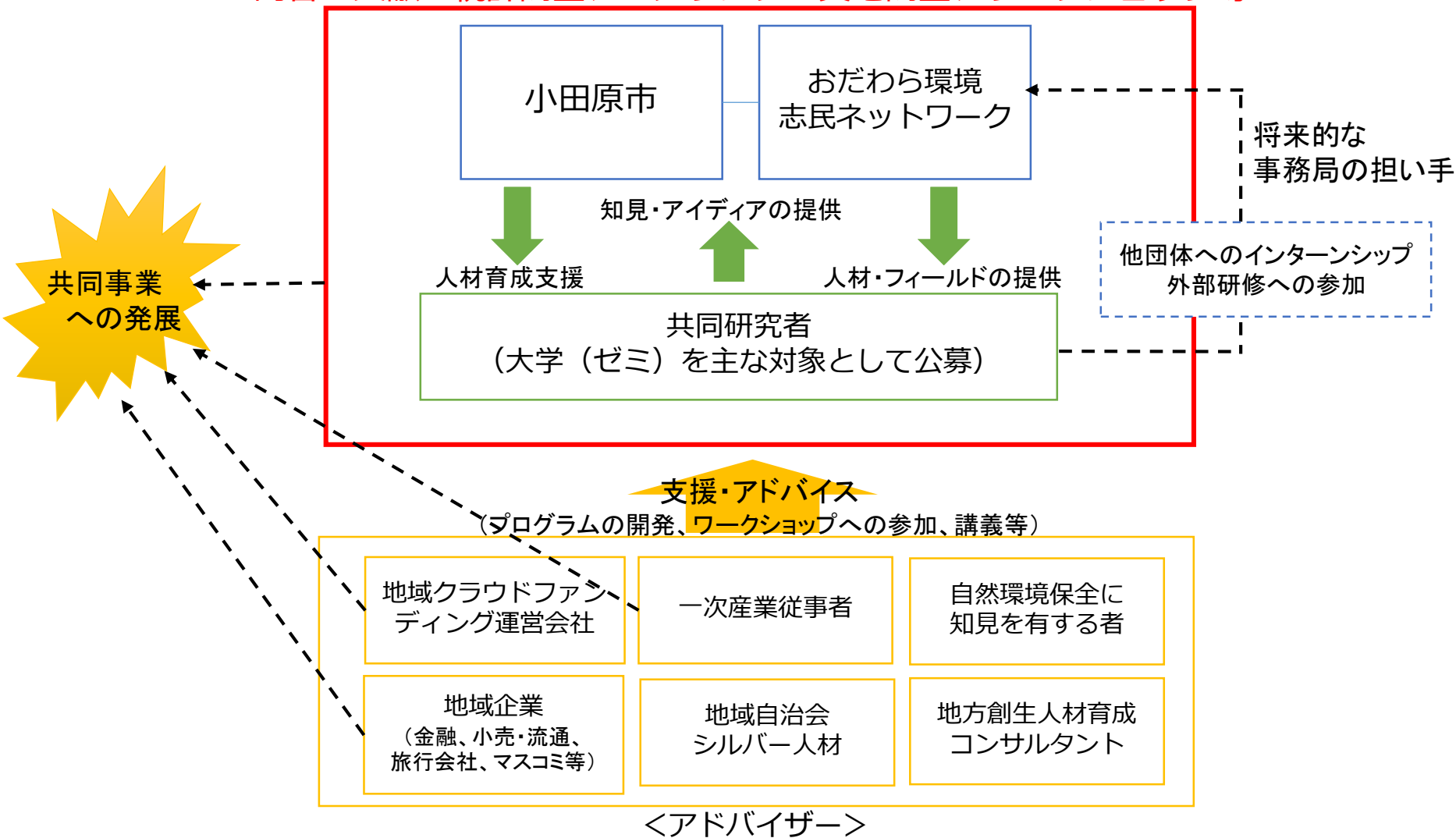
<事務局>：小田原市役所環境部環境政策課

小田原 森里川海インキュベーション事業^{よせぎ}“寄気” 事業概要

＜共同研究＞

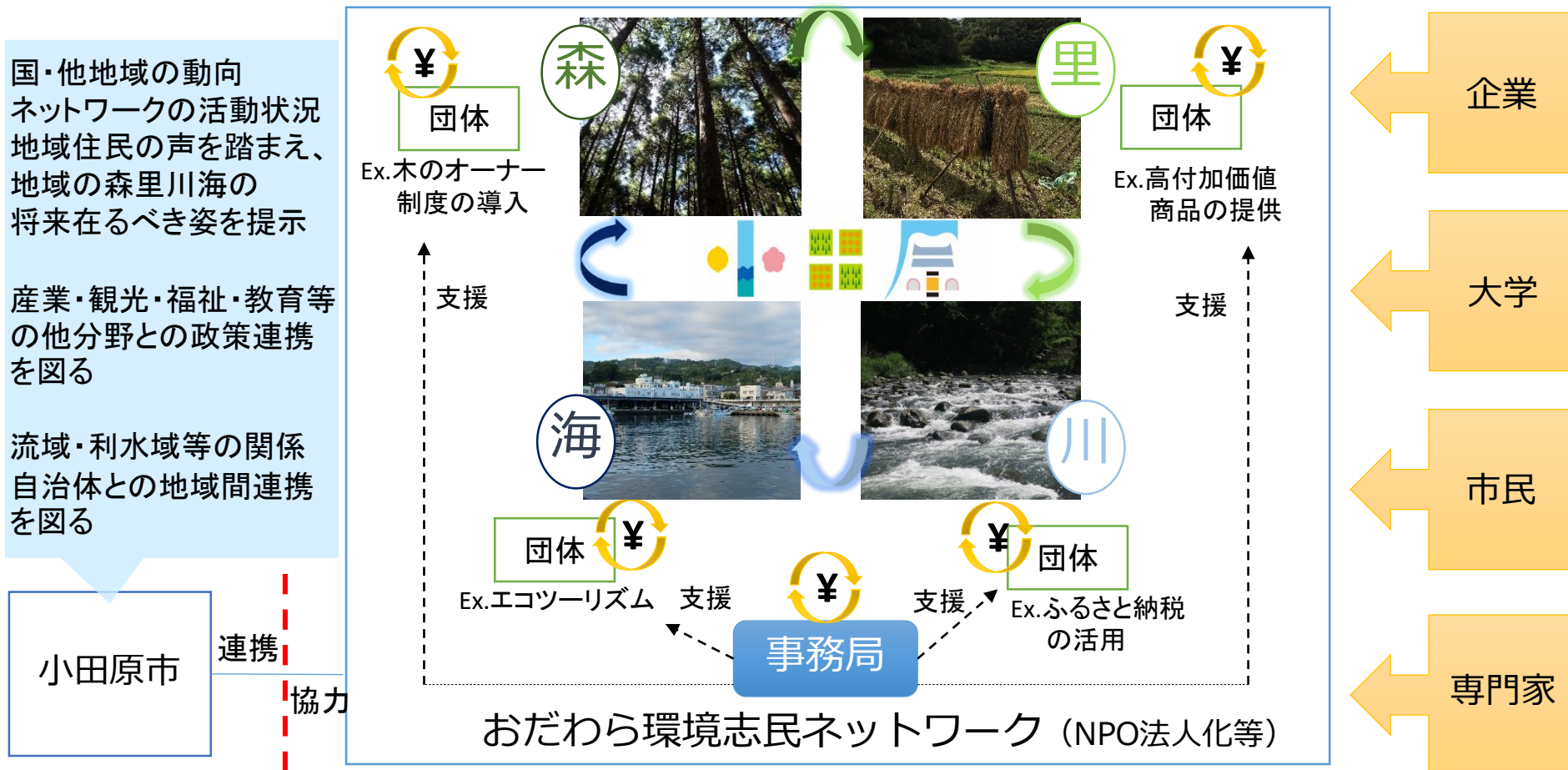
テーマ：ネットワーク及び加盟団体・個人の活動に経済性を持たせる仕組み

内容：文献・統計調査、ヒアリング・実地調査、ワークショップ等




小田原 森里川海インキュベーション事業^{よせぎ}“寄気” 事業成果

ネットワークの体制が人的・経済的に独立。事務局がブレインとなり、市内外の企業・大学等と連携して各団体を支援し、ネットワーク・各団体の活動が経済性を確保しながら充実。



小田原モデル（地域循環共生圏）の全国展開

(参考) 環境省森里川海プロジェクトについて



環境省森里川海プロジェクトについて

私達の暮らしを支えている「森里川海」が今、過度の開発や管理不足、人口減少、高齢化の進行などにより、つながりが分断されたり、質が低下している。その中で、どのように森里川海を管理し、それを通じて地方を創生していくか、官民一体となって考えていくために発足したプロジェクト。

プロジェクトの目標

○森里川海を豊かに保ち、その恵みを引き出します。

森里川海が本来持つ力を再生し、恵みを引き出すことで、森里川海とその恵みが循環する社会をつくります。

○一人一人が森里川海の恵みを支える社会をつくります。

私たちの暮らしは森里川海の恵みに支えられているだけでなく、日々の暮らし方を変えることによって、私たちが森里川海を支えることができます。一人一人がそれを意識して暮らす、いわば人と自然、地方と都市が共生する社会への変革を図ります。

H27年度の取組

○プロジェクトの普及

国民一人一人が、森里川海の恵みを実感し、その恵みを社会全体で支えていくという思いを広げていく。

○ボトムアップによる推進

地域で既に進められている取組の現状や課題を洗い出し、個別プログラムや仕組みづくりなどに活かす。

全国リレーフォーラム（全国47箇所：ミニフォーラム39箇所+シンポジウム8箇所）

※プロジェクトの主旨に賛同する各地の団体主催のイベントとも連携

小田原がリレーフォーラムのトップバッターを務めた。

平成28年度以降の環境省森里川海プロジェクトの今後のアクション

地域でまわる仕組みづくり

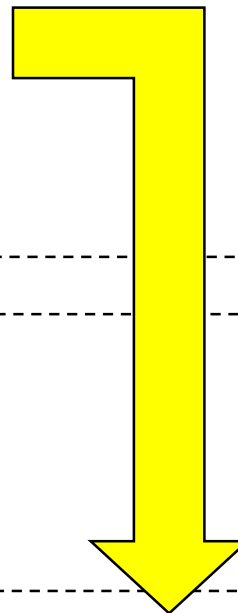
○森里川海を豊かに保ち、その恵みを引き出す取組み

- ・流域における森里川海の保全・再生
- ・取組同士の連携の仕組み
- ・**取組を支える人材育成**
- ・**経済・社会システムとリンクした資金づくり**

国全体で支える社会づくり

○一人一人が、森里川海の恵みを支える社会づくり

- ・森里川海の恵みへの意識・支える気持ちの醸成
- ・子ども達の笑顔あふれる自然体験の場づくり
- ・オシャレで豊かなライフスタイルの提案



H28～30実施事業（地域プロジェクト＝実証地域の支援）

①対象地域の公募	環境省が応援する実証地域を公募。10か所を選定し、②、③を実施。
②実証地域の支援	ア.多様な主体のプラットフォームづくり イ.自立のための経済的仕組みづくり ウ.人材育成
③効果の測定、課題の抽出	対象地域にもたらした社会的、経済的効果や生態系サービスを測定、併せて課題も抽出